

午前 10 時 3 分開議

○議長（岡本昭二）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

本定例会中における会議録署名議員のうち吉田議員から欠席の届けがありましたので、「会議録署名議員の指名」を日程に追加し、直ちに議題とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

○議長（岡本昭二）

異議なしと認めます。

よって、この際「会議録署名議員の指名」を日程に追加し、議題とすることに決定をいたしました。

それでは、会議録署名議員として、珍部議員を補充指名いたします。

日程第 1、「県政一般に関する質問及び知事提出議案に対する質疑」を行います。

これより一般質問を行います。

質問の通告がありますので、議長が指名して順次発言を許します。

五百川議員。

〔五百川純寿議員登壇、拍手〕

○五百川純寿議員

おはようございます。

自民党議員連盟の五百川でございます。ただいまから一般質問を行いますので、誠意ある御答弁をよろしくお願いを申し上げます。

私は、一昨年（平成 26 年）の 6 月から昨年（平成 27 年）の 6 月まで 1 年間にわたり議長を務めさせていただきました。その間、私は、都会と地方との格差に軸足を置き、あらゆる議長会、また国会議員の方々との意見交換の場で自分の思いをぶつけさせていただきました。

結論は、永田町も霞ヶ関も、島根県のことなどはほとんど考えていないと実感をいたしました。ならば、ここ島根に住む、島根に骨を埋める我々がしっかりとこのふるさと島根を守っていかなければならないと思いました。

そのためには、我々県議会は、会派を超えて、島根県また県民を守るために、この島根の特異性、地域性を十分に反映した島根型手法を考えるべく、みんなで知恵を出し合い協力をしていかなければならないと思っております。自民党がどんなに繁栄しても、民主党が、共産党が、公明党が、社民党がいかに繁栄しても、島根県が壊れてしまえば、我々県議会議員の大義は通らないわけでありま

す。世界がどんなに繁栄しようともしっかりと日本の国を守っていくのが国会議員の大義であり、日本がどんなに豊かで平和になろうともしっかりと島根県を守っていくのが我々島根県議会議員の大義であります。

私は、集団的自衛権とか特定秘密保護法案、また原発を含むエネルギー政策など国家論の柱となるべき政策に賛意を持っておりますので、自民党の議員であります。しかしだからといって、自民党政権にもろ手を上げて賛成するわけではありません。なぜなら、特にあの小泉内閣の三位一体改革以来、民主党政権もからみましたが、今日の都会と地方の大きな格差を生んだのは自民党政権でもあります。したがって、我々は、たとえ自民党政権が示す政策であっても、島根県にとって是非か、ここに判断基準を持って議論をし、言うべきことはしっかりと国に訴えていかねばならないと思います。

県民の皆様は、我々議員が属する政党の繁栄のために我々を県議会に送っているわけではなく、ふるさと島根を守るために選出していただいております。だからこそ、この県議会の場で、今後どのような島根を目指すのか、今を生きる県民のために何をするのか、次世代を担う子どもたちに何を残したいのかなどさまざまな意見、提言が党派を超えてほうはいと沸き起こり、その思いを国に向かって訴え続けていくなれば、やがては国の地方政策にも温かな血が通い出すものと信じております。そしてそのためにも、私はこれまでの議会を通じて再三にわたり申し上げておりますが、これからの島根が進むべき方向を示す羅針盤とも言うべき県土論が必要不可欠だと考えております。

溝口知事が就任された初めての全員協議会において、私は知事さんに、この厳しい時期、島根県の知事を目指されたということは、こういう厳しいときであるがゆえに、どのような島根を目指すべきか、島根県民は知事の理念を支持したわけですから、まず知事みずからが明確に島根の将来像を示し、そしてこれからの島根が歩むべきイバラの道に対する県民の理解と合意形成を得るための努力をすべきではないかと申し上げました。それに対して知事は、いろいろな考え方があろうと思うが、自分はいくまでも、検討委員会、諮問委員会を設け、それらの意見、議論を踏まえて島根の将来像を模索していきたいとお答えになりました。

また、私は一昨年の2月の定例会の一般質問でも、できる限りの県土論を示すべきではないかと申し上げましたが、知事さんは、総合計画を持っはいるが、行政は予算や条例を提出し、議会の意見を聞いてやるのであり、自分でこれでやると決めることはできないとお答えになりました。

今の県庁を見るとき、県職員の皆さんは、与えられた部門の仕事をミスのないように熱心に取り組んでいるやに思います。しかし、これから島根県はどこに向かっているのか、どのような島根県を目指しているのか認識できず、ただただひたすら手元を見て仕事に励んでいる。また、我々議員も、将来いかなる島根を目指しているのかわからない。政治家溝口知事として示すべき県土論なきことが、あらゆる面で県政の政策的議論に閉塞感を与えていると思います。

知事は、この4月の県知事選挙に立候補されるに当たり、どのようなふるさ

と島根をつくろうと考えておられるのか、伺います。

往々にして、昨今の地域施策のあり方や定住対策、また少子化対策の議論を聞いておりますと、主客転倒しているのが見受けられます。

沖縄視察の際、代々沖縄に住む人に、沖縄は観光客も急増し発展してよいですねと話しかけたところ、いや、昔はここに住む者がいろんな商売をし、物事が我々の思いで進んでいました、しかし今は観光ブームで、もうかる仕事はほとんど内地の大資本が入ってる、タクシーだってレンタカー業者との競合によって内地よりはずっと安い料金じゃないとやれない、昔から住んでいる沖縄人は沖縄の発展の土俵の隅に追いやられているんですよという言葉が返ってきました。日本における沖縄の観光資源としての存在意義は高まりましたが、昔から住んでいる沖縄の人の自治権はその発展の隅に追いやられていると感じました。

島根が直ちに沖縄のようにならないと思いますが、そもそも定住対策というのは、そこに住む人が、本当によいふるさとだなあ、ぜひ自分の息子、孫にもここに住んでもらいたいと思うところにこそ実効あるものとなると思います。俺はもうこの年だからどこへ行こうもない、ここに骨を埋めるしかないけれども、息子や孫はここに帰ってもしょうがないよと思うようなところに定住はありません。今その地域に住む人々はどのようなふるさとになることを望んでいるのか、尊重しなければなりません。

また、某大臣が、最近では耕作放棄地がふえている、耕作放棄地を合理的に集積し、その農地を守るために次の世代に住んでもらわねばなりません、知恵を出せば若い人も住んでくれるはずですよとおっしゃいましたが、私は話が逆だと思います。集積した耕作放棄地を守るためにそこに人を集めるのではなく、そこに住む人々の幸せのために農地を生かすという理念を持たねばならないと思います。

また、隠岐の海士町の取り組みが全国的に高く評価され、注目されております。私も、海士町の取り組みには本当に頭が下がる思いがいたしております。

海士町は今まさに、かたい岩山に根を張り、必死で寒風に立ち向かい、青い葉を茂らせている一本の松だと思います。この松はみずからの力でここまで育ちましたが、あの姿を見て、地方もあのようにすれば生きていけるんですよなどと言っていたのでは、それは政治の怠慢だと思います。政治は、卓越した能力のある人や奇抜な発想をする人を頼りにするのではなくて、あくまでも平均的日本人、最大公約数的日本人を念頭に入れて政策をうたうべきであります。かたい岩山の上にも松を支える幾ばくかの養分を与えること、隠岐の全ての島にも同じような松が育つように養分を与えることが政治の使命ではないかと思います。

私は、県土論の第一歩はナショナルミニマムの担保だと思います。どこに暮らしていようとも、病気にかかれば近くに病院があり、安全に通学できる学校があり、生活必需品も身近で手に入る、またそこそこの災害についても対応はできるなど、日本人として生まれた豊かさと島根に生きる喜びを県民の皆さん

が最低限度享受できる生活環境を提供していると為政者として自負できるエリアは、現在、また今後どこまでなのかを示さなければならないと思います。

最低限度とはどこまでのことを言うのかなどと行政的な議論をする気はありません。島根を守ろうとする政治家の思いとして、十分ではないかもしれんけれども何とか県民として生きる喜びを感じて生活していただけると考えるエリアであります。そもそも我々県政に携わる者として、隠岐の島に、また海士町に松を育てる養分を与えているのか、島根型ナショナルミニマムという毛布を敷いてあると自負できるのかと思うわけであります。

日本列島の冷たい岩盤の上にナショナルミニマムという毛布を敷き、我々は文化国家、日本人として豊かさと喜びを感じながら生活しております。島根の毛布は都会の毛布よりもはるかに薄いけれども、吹いてくる風は都会よりも爽やかで暖かいと信じております。

しかし、今や人口が減少し、財源が削減されるなど、当然のことながら、今までのように島根県全土にたとえ薄い毛布であっても敷くことは不可能だと思います。今の島根の現状を例えて言うなれば、皿に薄く水を張った状況であろうと思います。皿をどちらかに傾ければ、水は傾けた側にたまりますけれども、反対側には底が見えるわけであります。

若者に大都市ではなくここ島根に住んでもらうためには、大事な部分に絞ってグレードアップを図るべきであろうと思います。すなわち、県民に島根の将来像への理解と協力を求めるためにも、どの部門、どの地域はグレードアップをしますが、しかしこの部門とあの地域については我慢をしてくださいと、言いにくいことも明言し、次の世代が確かな夢と希望を持って生活できる県土づくりに本気で取り組む姿勢を示していただきたいと思います。

将来にわたってふるさと島根を守っていくためには、厳しい現状を見据えた選択と集中は避けて通れないと考えますが、知事の見解を伺います。

中山間地域や離島対策に対する一例を申し上げるならば、だんだんと疲弊していく地域を守っていくためには、幾らかの集落や地域を一カ所に集積し、生活環境のグレードアップを図ることが、その地域の崩壊を防ぐダムになり得ると思います。もちろん、ダムすなわちその地域の拠点に一举に集積するのではなく、将来の姿を住民の皆さんに明確に示し、経過措置をとりながら漸次進め、実現を図ることであろうと思っております。

我々の使命は、島根県の延命でもなければ、疲弊し崩壊しつつある地域を切り捨てることでもありません。現実を直視する中で、島根の存在意義を構築し、いつかの時点でリバウンド、リカバリーするポテンシャルと意欲を高めることが必要であろうと思います。

最後に、政治家としての姿勢、哲学について伺います。

政治は、地球上の生物の中で人間の世界にのみ存在すると思います。言いかえれば、政治の本質は人間臭く泥臭いものだと思っております。人間臭さ、泥臭さを失えば、政治が政治でなくなってしまう。わかっているけどやめられない、若干やゆされますように、人間とは不条理なものだと思っております。

その人間社会を何をもってよしとするのか、それが政治だと思っております。

また、政治家は絶対を求めてはいけないと思います。人間社会には、多種多様な人間が混在しております。その人間社会を現時点でどこをもってよしとするのか、私心私情を捨て判断する責務があると思います。残念ながら私心私情をなかなか捨て切れぬ自分を未熟だとは思いますが、精いっぱいそうあるように努めなければならないと思っております。他人はだませても自分はだませない、明鏡止水のごときならず、いつもさざ波が立っているみずからの心ではありますが、常にみずからの心に問いながら、誠心誠意、政治活動に努めなければならないと思っております。

人間社会の事象について、科学的、合理的根拠に基づき、絶対的真実を追い求め、自説の正当性を主張する、またそれを目指すのが学者、学説の世界だと思います。しかし、政治は、多くの科学的、歴史的に真実が明らかにされていない事象、環境の中で、あくまでも人間の幸せを願い、その人間社会を現時点で那邊をもってよしとするのか、みずからの哲学とバランス感覚を持って判断すべきものと心得ます。

最後になりますが、政治、行政のトップである知事はどのような政治哲学や感覚を持ってこのふるさと島根を導いていかれる考えなのか伺いをいたしまして、私の質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○議長（岡本昭二）

溝口知事。

〔溝口知事登壇〕

○知事（溝口善兵衛）

五百川議員の御質問にお答えをいたします。

私に3問ございまして、大変大きな問題でございますので、3点、できるだけ、長くはなりますが、お話をいたしたいと思います。

まず最初の質問は、どのようなふるさと島根を築こうとするのかという御質問でございます。

やはり今、日本全体では、人口の減少、経済の停滞といった問題があります。その中で、それが最も進んでいるのがこの島根など地方でございます。地方をそういう状況から立ち上がるようにしなきゃいかんということで、国は地方創生、あるいはアベノミクスの地方への波及ということで、いろんな政策を変えてこようとしておるといふふうに見ております。

そこで、島根の経済を活性化し、地域が元気になり、人口の減少がとまっていく、これが当面の県政の最も大きな課題であろうというふうに思っております。そのためにはやはり、これまでも産業振興ということをいろんな形でやってきておりますが、地域地域の資源を活用して産業振興をさらに強力に進めていくと、そしてそれは県内でも都市部だけでなく中山間地域、離島を含めて島根全体を元気にしていくというのが県の役割だというふうに思っております。

そのために、今、各地で一生懸命雇用を守ろうとしておられるわけでございます。企業もそうでございますし、いろんな事業もそういう観点でいろんな努力をされておられるわけでございます。そういう中で、若者の仕事をふやすようにすることが大事でございます。

そして、そういうことをするためにも、私は、これもいつも言ってることでありますけども、島根はやはり大都市から遠かったと、企業が来るにも物を運ぶにも。大都市周辺は自然と大都市の発展の恩恵を受けるような状況になりましたけども、島根ではそういうことが受けにくい状況にあったわけでありまして。

したがって、道路などの社会インフラを強化しながらそれを進めなければならない、それを進めていこうというのが私の考えであります。それによって活力のある島根を築いていこうということであります。そして、そういう中で、子育てのしやすい島根のような環境を維持し、子どもの教育が充実強化され、またお困りの世帯に対して支援をしていくという子育て支援を行う、さらに、女性の方々が活躍できるような雇用環境をつくっていく、そして、高齢者も障がいをお持ちの方々も安心して暮らせる島根、住みやすい島根を築くということでございます。

島根各地には、それぞれの古きよき文化、歴史、そして豊かな自然、そして人のなりわいと暮らしがあるのであります。そういう意味で、議員お尋ねのふるさと島根をどのように築いていくのかということにつきましては、こうした地域地域の特色を生かしながら、住みやすく活力のある地方の先進県島根を目指すと、そうした島根がふるさと島根になるように全力を尽くしていきたいというのが私の考えであります。

次に、ふるさと島根を将来にわたって守っていくためには選択と集中は避けられないと考えるが私の見解はどうかという御質問でございます。

選択と集中ということは、行政において、これは行政に限りませんけども、いろんな企業活動、経済活動においてもみんなそういう選択と集中を求められるわけでございます。行政ですと、やはりいろんなレベルによってそれが求められているというふうに思います。

身近な状況を申し上げますと、例えば小中学校の統廃合をどうするかといったような問題でありますと、少子化、過疎化の影響で児童生徒が少なくなった地域におきましては、児童生徒数を一定の規模を確保して教育の効果を上げるために学校を統合するのか、あるいは通学の負担、地域の拠点としての役割を重視して学校を残すのかという選択を求められます。そうした場合には、国の一つの基準がございますから、それを参考にしながら、市町村当局が保護者や地域住民の意見をよく聞きながら方針を定めていくということになります。

高校につきましても、生徒が少なくなると学級数が減っていくわけでございます。場合によっては高校が維持できないといったことになります。それは、高校は県の仕事でございますから、県もそういう点については、中山間地域、離島にそういう問題が多いわけでございますから、高校を魅力化する事業をやって生徒数を確保するような選択を今しておるということでございます。

また、別の例で申し上げますと、先週の中村議員の代表質問の中でもお答えをいたしました。中山間地域や離島などでは、病院、介護あるいは買い物などについて、基幹的集落にそうした機能を集約して周辺集落と交通ネットワーク等で結ぶ小さな拠点を選択するという動きも、県内では既に市町村当局と住民が一緒になって実情に即した取り組みを行っているところも出てきております。これは今後も進みますし、県内のそういう地域につきまして、地域地域でそういう努力をするように県も一定の支援をしております。

それから、県内の地域医療の確保といった大きな問題があります。これは、各地域にある病院の規模などから、おのずから集中の方向でせざるを得ないという現実がございます。今、県では、松江、出雲、雲南、大田、浜田、益田といった比較的大きな病院があるところを中心に地域的な体制づくりをやって、それぞれの地域でもそれはやむを得ないことだというふうな状況になっておるわけでございます。

また、病院だけでなく介護施設あるいは買い物の施設などを含めて、コンパクトシティをつくっていかうという考え方もございます。これはこれから進んでいくものだろうというふうに思います。

そして、大病院となりますと、これは県内にそうないわけでありまして。県立病院がその役割を果たしますから、東部のほうでは県立病院を活用するということとなりますが、西部でありますとかそういうところでは難しいわけでございますから、山口県、広島県の協力をかりてそういう高度医療の確保をするといったことをやっておるわけでございます。

それから、もう一つの例として、例えばやはり産業の振興をするためには道路といった社会インフラの整備ということが不可欠なわけでありまして。しかし、そうした基幹的道路、高速道路のようなものは国の予算で、直轄でありますとか補助でありますとか、そういうことで決まってしまうわけでございます。そこに一定の制約があるわけでございますので、まずやはり県内で南北に必要な道路を整備をする、あるいは東西に高速道が早くつながるようにするということが事業を進めておるわけでございますが、これも国の予算制約がございますから、おくれたりする場合もあるわけでございますけれども、そこは県議会あるいは各市町村、国会議員の方々と一緒になりまして国に毎年毎年何度もお願いに行っておるということでございます。

国におきましては、大もととなる国におきましては、これは私が言うまでもないことでありますけれども、日本経済全体の停滞が多分バブル崩壊後 20 年以上にわたって続いているわけでございます。そういう中で、かつては公共事業なども、平成の初めでありましてかそういうころには大変大きな進展もあったわけでございますが、かつてはたしか 10 兆円を超えるような予算もありましたが、今は 5 兆円だとか、半分ぐらいになっておるわけでございます。かつてはまた、外国との摩擦を防止するといったことで景気対策が随分とられて、補正予算も随分あったわけでございますが、今はそういうものが非常に少なくなっている状況でございます。

したがって、政府は、その間に財政が巨額な赤字を抱えるようになりまして、財政そのものを立て直さないと日本自身が立て直っていかないということで、財政の再建と、高齢化などによって増嵩します社会保障の体制を安定化するという2つの目的のために、消費税の引き上げを行おうとしておるわけでございます。そういうふうに、政府におかれても選択と集中ということで、公共事業の全体額が縮まってきますとやはり大都市に集中しかねないわけでございますから、そういうことがないように、我々としては県を挙げて国に要請をしてきてるということが実態でございます。

そういう意味におきまして、選択と集中、いろんなレベルでございますが、財政の状況等々も踏まえながら我々は国に要請をしてきたわけでございますが、今般初めて、地方を大事にしなければ日本全体の人口減少問題というのはなかなか対処できないということを政府は決定をされ、地方創生ということで、地方を大事にしようということを始められておりますが、しかし全体の状況を見ますと、消費税の引き上げはやはりいろんな理由があって延期になりますし、今あります国、地方を通じた財政の状況が短期間に大きく変わるということはなかなかないわけでございます。そういう中で、豊かな島根を築くように、県を挙げて国に対して要請をしてまいります。そういうことをやりながら選択と集中を図っていくというのが県の大きな課題だというふうに思ってます。その際に、やはり各地域の皆さん方の意見をよく聞きながら、議会の皆さんともお話をしながら、やはり皆さんが理解をしながら進んでいくということが今の環境の中で特に大事になっておるというふうに私は考えております。

最後の質問でございますが、どのような政治哲学や感覚を持って島根を導いていくのかという御質問でございます。

この点につきましては、先ほど来申し述べておる答弁とやや重複いたしますが、島根には、豊かな自然に恵まれ、子育てがしやすい環境があり、商業や医療の機能が一定程度集まる中小都市が東西に分散をしておって、東京など大都市にない魅力といいますか、いいところがたくさんあるわけでございます。私も東京などに長く住んでおりましたが、東京などでは、子育てというと、夫婦で子育てをしているような場合には1人育てるのが精いっぱいというような状況でございます。そういう意味では、島根などは非常に住みやすいところでございますし、子育てもしやすいところでございます。

都市の若者たちも、島根などに住みたいといった人がふえておるわけでございますから、こうした島根で暮らす県民の皆さんが将来に明るい展望を持って元気に過ごすことができるよう地方の先進県をつくっていくということが私の考えでございます。そして、子や孫に自信を持って島根に暮らすことが幸せであると勧めることができるような島根をつくっていかなければならないというふうに考えております。

私は、このような考えのもとで、県民が誇れる島根を次の世代につないでいくために全力で県政運営に臨んでいるところでございます。以上でございます。

○議長（岡本昭二）

五百川議員。

〔五百川純寿議員登壇〕

○五百川純寿議員

ありがとうございました。

これは質問というより、いま一度感想を聞きたいんですけれども、私は、例えて言うならば、土俵の上でいかにこの土俵をうまく使って相撲をとるのかというのが行政だと、そしてきちっとこの土俵からはみ出さないように、きちっと本当に土俵の中で相撲がとれてるのかどうか見てるのが司法だと思ってます。しかし、どう見てもこの土俵では行政は相撲はとれないなあ、そういうときにはこの土俵を描きかえる、あるいは徳俵を設ける、これが私は政治立法の立場だと思うんですね。

先ほど来、知事さんおっしゃっておりますように、確かに国というものには、いわゆる我々も法治国家ですから、非合法なことやるわけにいかない。しかし、国が定めたものであっても、我々は島根県にとってどうなのか。だから、例えば地方創生という枠がある、メニューが国はこういうことなんだといって出されてきても、我々はどうしてもこのメニューの中ではこの土俵では相撲がとり切れないと、そういったときにはやはりきちっと国会議員を通じてでもそこに徳俵を設けてもらうような、そういうやはり努力、そういうふうないろんな角度で本当に真剣に、この土俵でいいのかどうなのか、そういうことをやらねばならん。これは非合法なことをやるわけじゃないけど、合法性の中で精いっぱい島根県を守っていく、そのナショナリズムを守る闘いやってるわけですから、このことについて感想をひとつ聞きたいと。

いま一つは、例えば今、かなり衰退しております。そういう衰退してる地域について、これは私もこれがいいとはなかなか言いがたいんですけれども、要するにだんだんと疲弊している。それを見ておって、いやだんだんと疲弊していったやがてその地域はなくなっちゃうわなと、そうするとそこに住んでる皆さん方もその状況を見ながらだんだんと諦めて自然にどっかに収れんされるだろうと、こういう見方が1つあると思います。

しかし、これはそういう状況を放置するのではなく、どう見たってこのままほっといたらそうなるなあ、こうなるかもしれんなあ、そういうときにはそこで、いやあんだのところはちょっときついから、ここはこういう形で1つにしたらどうだろうかということを行うことは実は非常に勇気が要る。勇気が要るんだけど、やはり、じゃあ誰がそれを言うのか。それは私は政治家だと思うんですね。これからどう考えたところで私はこれからこうならざるを得んと思いますよと、日本の、今島根県の人口とか財源考えたときに。それは、いややっぱり選挙を考えるとちょっと言いにくいんですよねということではなくて、やっぱりそれをじゃあ誰かがまず、どうもそうなりそう、要するに先手を打たないかん、そういう面で私はこうあるべきだと思うということは、やは

り為政者として私はそれを言うべきじゃないかなあと思っておりますが、この2点について御感想を伺いたいと思います。

○議長（岡本昭二）

溝口知事。

〔溝口知事登壇〕

○知事（溝口善兵衛）

お答えいたします。

最初の質問は、一定の枠組みがあると、政府の政策だとか制度を含めですね、それでは島根が困るといった事態のときに、事態になってるわけですね。そうすると、それを変えるように働きかけなきゃいかん。これは当然のことでございます。

1つには、そういうことがありますから、毎年、議会と一緒に重点要望という形でそういうものを盛り込んで国に対してやってまいります。私はそれだけでなく、知事としては、御承知だと思いますけども、道路整備などですと、鳥取県の知事なんか一緒にしまして、10県近い知事が集まって、国に早く基幹的なインフラを整備するようにやるべきだという活動をずっとやっておるわけでございます。あるいは、地方ということですと、これは私が提唱したわけですけども、福井県の知事なんかと一緒にしまして、これも十数県の知事ですけども、地方の立場から国はこういう政策をとるべきだということを随分やっておるわけでございます。

それから、今度の地方創生に関しまして、国のほうは、地方を創生するために支援を少し強化をしようということでございますが、予算的な制約がありまして、大きな規模にはなっておりません。そういう中で、これは議会とも一緒にやりましたが、やはり社会資本の整備というものを地方創生の中に入れないと、島根などは大都市から遠いということが発展の大きな障害になってきたわけだから、そういうことをやらないと効果は上がりませんよと、それが必須なんだということを、我々の提案もつくりまして、これは議会と一緒にですけども、提案をつくって、それを政府にも申し入れて、議長と一緒に参りましたけども、そういうことをやっておりますし、あるいは知事会と政府閣僚が意見交換をする場がありますが、その場においても私は知事会として、そういうことを今の地方創生のプログラムの中に入れるべきだと、地方から言うべきだということを申し上げて、それは知事会の会長もそういうことはその場で言いましたけども、政府は、それは地方創生とは別の問題だということでは入れないということになりましたが、それは私からいうと、本当に大事な問題に触れないことになってると。それはみんなわかってると思うんです。ただ、それは今の国の財政からいうと、地方創生のための直接的な交付金は1,700億円ぐらいでございますね。そのぐらいしか今できないわけでありまして。社会資本のところまで入れてというのになると、これは難しいという判断だと思いますね。しかし、それ

はきちつと言っておるわけでございまして、今後もそういう努力はやっていきたいというふうに思います。

それから、疲弊しているところは自然にそういうプロセスが進むんではないかということですが、私は、大事なことは、地元自身がそういうことを一番真剣に感じて、どうしなきゃいかんかというのを考えるわけでありまして。国がありまして、都道府県がありまして、市町村がありまして、市町村の下に旧市町村があり集落があるということで、一番の危機感を持って対応され、どうしなきゃいかんかというのを一番わかっておるのはやはり現場の人たち、その人たちが一番日々困ったことに遭遇するわけでございますから、そうすると、市町村でもやれることは限られている、島根県にも要請をされる、県自身も島根県のことはよくわかってる、しかしそこでできないところもありますので国に要請をするというプロセスを通していくわけでありまして、やはりそれは上から国が例えば予算が不足してるんで効率性の観点から大都市のほうからやっていきますよというようなわけにはいかないわけです。

そういう意味で、まどろっこしいように見られるかと思いますが、みんなどういふことがある程度必要だということは意識はしてるわけですが、その中でやはり意見の調整を図りつつやっていくということが私は政治の一つの方法だろうというふうに考えております。

○議長（岡本昭二）

五百川議員。

〔五百川純寿議員登壇〕

○五百川純寿議員

大体わかりました。

ただ、大都会からということではなくて、島根県知事として、やっぱり客観的に見て、今の人口の減りぐあい、財源を考えたときに明らかにそういう形になってくるんじゃないかなあということは、上から大上段にこうやりなさいということではなくて、やはり為政者として、今後はこうやったほうが今の世代のみならず次の世代のためにもいいと思うと。問題は、次の世代、その次の世代に住んでもらわにゃいかんわけですから、そういう意味の言い方の問題であって、上からどんとやるということではなくて、やはり今島根県をつくっておる、島根県をどういう島根をつくるかという立場にある者として、今後はこうあるべきだと思いますというぐらゐのことは私は言ったほうが政治家としては良心的ではないか、こう言っておりますが、いかがでございますか。

○議長（岡本昭二）

溝口知事。

〔溝口知事登壇〕

○知事（溝口善兵衛）

お答えいたします。

そういうことは表現の仕方の問題でありますけども、それは当然いろんなことで意見交換をしておるわけですね。要請に対して全部受けるわけにいかないものもあるわけでございますし、できるもの、できないものというのは。しかし、できることをある程度やはりまず聞くということも大切なことですね。

例えば高校の魅力化などは、やはり海士町のほうから提案があって、それはやはりやってみましょうということで始まり、一定の効果をあらわしておるわけございまして、そういう効果があればさらにやはり続けていくということがあるでしょうし、効果がなければその時点で考えていくということでありまして、状況を傍観してるということではないんです。やり方、表現の仕方の違いではないかというふうに思って、考え方はそう違ってはないというふうに理解をしております。